

# 安全データシート

作成日：2005/07/14

改訂日：2021/06/07

## 1. 製品及び会社情報

製品名	mSample Preparation System (RNA・核酸抽出試薬) (Abbott mMicroparticles)
製品コード	4J7024_MD134A NEW
会社名	アボットジャパン合同会社
住所	東京都港区三田三丁目 5 番 27 号
担当部門	カスタマーサポートセンター
電話番号	0120-031441
緊急連絡先	カスタマーサポートセンター 0120-031441
整理番号	CSC235-5

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

物理化学的危険性	区分外
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分 4
急性毒性(経皮)	区分 4
急性毒性(吸入)	区分 4
皮膚腐食性/刺激性	区分 1B
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	区分 1
環境に対する有害性	
水生環境有害性/ 長期間有害性	区分 3

### ラベル要素

#### 絵表示



#### 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

飲み込んだり皮膚に接触したり吸入すると有害  
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
長期継続的影響により水生生物に有害

#### 注意書き

取扱後は手をよく洗うこと。  
環境への放出を避けること。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡を着用すること。  
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。  
無理に吐かせないこと。

皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水またはシャワーで洗うこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。ただちに医師に連絡すること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

施錠して保管すること。

内容物および容器は適切な方法で廃棄すること。

GHS 分類に該当しない  
他の危険有害性

酸との接触により非常に毒性の強いガスを発生させる。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

成分名（化学名又は一般名）	化学特性	CAS 番号	濃度 又は 濃度範囲	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
酸化鉄	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	1309-37-1	1.5%	(1)-357
非公開	非公開	非公開	98.5%	非公開

### 4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気を与えること。必要な場合は、人工呼吸器を使用すること。負傷者の体を温めること。症状が継続する場合は、医師に連絡すること。新鮮な空気または酸素を与えること。ただちに医師の診察/手当てを受けること。呼吸困難などの症状は遅れて現れ、損傷程度の過小評価につながる可能性がある。少なくとも暴露後 48 時間は医学的観察を行うこと。

皮膚に付着した場合

製品が付着した衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水で 15～20 分間洗うこと。医師の診察/手当てを受けること。痛みなどの症状は遅れて現れ、損傷程度の過小評価につながる可能性がある。少なくとも暴露後 24 時間は医学的観察を行うこと。

眼に入った場合

眼を開けた状態で、水で数分間注意深くすすぐこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師の診察/手当てを受けること。処置後に手を洗うこと。痛みなどの症状は遅れて現れ、損傷程度の過小評価につながる可能性がある。少なくとも暴露後 48 時間は医学的観察を行うこと。

飲み込んだ場合

水で口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。ただちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の  
最も重要な徴候症状

けいれん、胃腸の不調、吐き気、頭痛、方向感覚の喪失、腎臓障害、皮膚および眼の薬傷の可能性

医師に対する特別な注意事項

データなし

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、噴射水、または泡消火剤

- 注意：閉鎖された空間で二酸化炭素を使用する場合には、酸欠を引き起こす可能性があるため、注意すること。
- 規模の大きい火災の場合：この製品に関連する消火活動の方法を決める際、考慮すべき特有の化学物質や危険な反応性はない。環境に適した消火剤を使用すること。

### 使ってはならない消火剤

特になし

### 消火を行う者の保護

規模の大きい火災の場合には、適切な耐熱、耐炎保護衣と呼吸保護装置を使用すること。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、 保護具及び緊急措置

項目 8.に記載の適切な保護具を使用することにより、暴露を最小限にすること。可能であれば、漏出を止めること。  
保護具を着用していない者を近づけないこと。

### 環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法 及び機材

液体及び蒸気を下水道、排水口、表層水または土壤に浸入させないこと。  
少量の漏出の場合はペーパータオル等で吸い取る。  
大量の漏出の場合、吸収材で囲って流出を防止する。ペーパータオル、一般的な吸収材、砂、珪藻土、おがくずなどの液体吸収材で吸い取ること。  
漏出したエリアを清掃すること。温水と合成洗剤または類似の洗剤が適切である。  
汚染されたものの廃棄については項目 13.を参照すること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策（局所排気・データなし  
全体換気等）

安全取扱注意事項 データなし

接触回避 眼への接触を避けること。  
吸入を避けること。

### 保管

安全な保管条件 保管に関する追加情報は、添付文書または製品ラベルを参照すること。

安全な容器包装材料 オリジナルの容器及び包装でのみ保管すること。

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 情報なし  
許容濃度

危険有害成分	日本産業衛生学会 (2020年版)	ACGIH (2017年版)
酸化鉄	1 mg/m <sup>3</sup> (吸入性粉塵、酸化鉄として)	時間加重平均 (TWA) 5 mg/m <sup>3</sup> (Feとして)

### 保護具

#### 呼吸用保護具

通常の使用及び保管、または少量の飛沫(例 ペーパータオル等で十分吸い取ることができる量)の場合- よく換気されている室内では必要ない。  
その他の異常事態 (例 大量の漏出)の場合 - 化学物質濃度が上述の暴露限界を超えているような場合には、適切な濾過式呼吸用保護具を使うこと。  
有害物質の緊急事態又は消防活動の場合：適切な呼吸器の保護具を使用すること。化学物質濃度が上述の暴露限界を超えているような場合には、注意すること。

#### 手の保護具

接触が予想される場合、不浸透性の保護手袋を着用すること。使用して汚染された手袋は適切に廃棄すること。

#### 眼の保護具

安全眼鏡等を着用すること。液がはねる可能性がある場合、フルフェイスマスクまたはゴーグルを着用すること。

#### 皮膚及び身体の保護具

通常の使用：実験服か他の適切な保護服を着用し、衣服の汚染を防止すること。  
大量の漏出(例 衣服にしみ込む量)の場合：防水性の保護衣を着用すること。

#### 特別な注意事項

職業的暴露許容限度が設定される危険有害性成分は、製品に含まれていない。

製品を使用する場所をいつも清潔に保ち、一般的な注意事項に従うこと。製品又は検体を使用する場所で、飲食を行わないこと、食料及び飲料を保管しないこと。休憩開始時、製品や検体を取り扱った後又は作業終了時には手を洗うこと。

皮膚への接触を避けること。

眼への接触を避けること。

汚染された衣類はただちに脱ぐこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 製品として

外観	
形状	液体
色	黄色
臭い	無臭
pH	7.8 (20°C)
融点/凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	引火性なし
自然発火温度 (発火点)	自然発火性なし
燃焼または爆発範囲の上限/下限	爆発の危険性なし。
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	情報なし
比重 (相対密度)	1.077 g/cm <sup>3</sup> (20°C)
溶解性	水に対して：完全に混和できる。
粘度(粘性率)	水に対して：64.4%

## 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	仕様書通りの使用、保管であれば、分解しない。
危険有害反応可能性	危険有害な反応性は報告されていない。
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	危険有害な分解生成物は報告されていない。

## 11. 有害性情報

### 製品として

急性毒性	飲み込んだり皮膚に接触したり吸入すると有害
皮膚腐食性および皮膚刺激性	重篤な皮膚または粘膜の薬傷 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
眼に対する重篤な損傷性 または眼刺激性	重篤な薬傷。症状が遅れて現れる可能性あり。 重篤な眼の損傷
呼吸器感作または皮膚感作性	感作性は報告されていない
その他情報	情報なし

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

製品を地下水、水域または下水道に浸入させないようにする。水生生物に有害。

## 1 3. 廃棄上の注意

本製品は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

## 1 4. 輸送上の注意

### 国際規制

陸上	ADR (欧州危険物道路輸送協定)	Class 8 / 腐食性物質 Packaging Group II
海上	IMDG (国際海上危険物規則)	Class 8 / 腐食性物質 Packaging Group II
	海洋汚染物質	非該当
航空	IATA(国際航空運送協会危険物規則)	Class 8 / 腐食性物質 Packaging Group II

国連分類 Class 8/ 腐食性物質

国連番号 UN1760

品名 Corrosive Liquid, N.O.S  
(Guanidine thiocyanate solution)

容器等級 Packaging Group II

## 1 5. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9)	酸化鉄 (政令番号 192)
	名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号別表第 9)	

## 16. その他の情報

連絡先	お問い合わせの第一報は、カスタマーサポートセンター：0120-031441 まで。
その他	<p>この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには充分注意してください。</p> <p>なお、含有量、物理/化学的性質、危険有害などの記載内容は、情報提供を目的とするものであり、いかなる保証をなすものではありません。注意事項は通常の実施を対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施してください。</p> <p>また、この安全データシートの内容について、特に混合物の場合には、成分の濃度等を考慮した上でご閲覧ください。</p>
変更点	<p>以下の項目に変更があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>「1.製品及び会社情報」</li><li>「2.危険有害性の要約」</li><li>「4.応急措置」</li><li>「7.取扱い及び保管上の注意」</li><li>「8.暴露防止及び保護措置」</li><li>「10.安定性及び反応性」</li><li>「11.有害性情報」</li><li>「12.環境影響情報」</li><li>「14.輸送上の注意」</li><li>「16.その他の情報」</li></ul>